

令和6年度
学校関係者評価報告書

【評価対象期間】 自：令和5年4月 1日
至：令和6年3月31日

学校法人創心会 西日本看護専門学校

目 次

I. 学校関係者評価の概要と実施状況	- 2 -
1. 学校関係者評価の目的と基本方針	- 2 -
2. 学校関係者評価委員名簿	- 2 -
3. 学校関係者評価委員会の実施状況	- 2 -
4. 学校関係者評価委員会の実施方法と評価の仕方	- 2 -
II. 学校関係者評価委員会の報告	- 3 -
1. 重点目標について	- 3 -
2. 基準項目について	- 4 -
基準1 教育理念・目的・目標(人材育成像)	- 4 -
基準2 学校運営	- 4 -
基準3 教育活動	- 5 -
基準4 学修成果・教育成果	- 6 -
基準5 学生支援	- 7 -
基準6 教育環境	- 7 -
基準7 学生の受入れ募集	- 8 -
基準8 教育の内部質保証システム	- 8 -
基準9 財務	- 9 -
基準10 社会貢献・地域貢献	- 10 -

I. 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的・基本方針

1) 目的

- ① 保護者等、卒業生、地域住民、企業関係者、高等学校関係者などの学校関係者が、西日本看護専門学校自己点検・自己評価結果を評価することを通して、自己評価の客観性・透明性を高める。
- ② 学校運営・教育活動の現状と課題について、学校関係者と共通理解を深めて、相互の連携を促し、学校運営の改善を図る。

2) 基本方針

西日本看護専門学校における学校関係者評価は、文部科学省及び私立専門学校等評価研究機構の「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

2. 学校関係者評価委員名簿

区分	氏名	所属(役職)
地元企業関係者	川井 伴子	(社医)北九州病院 北九州総合病院 看護部長
高等学校関係者	白川 英治	福岡県立京都高等学校 校長
地域住民	柴田 文寿	湯川校区
卒業生	瀧内 正範	福岡青洲会病院
保護者等	越智 るみ	保護者等代表

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

日時：令和6年5月27日(月) 14:00～15:00

場所：西日本看護専門学校 1階 会議室

4. 学校関係者評価委員会の実施方法、評価の仕方、公表

学校関係者評価委員の皆様、西日本看護専門学校の自己点検・自己評価表を事前に配付し、ご意見をいただく。学校関係者評価委員会開催時に、本校から評価項目の説明及びいただいたご意見を紹介、また新たなご意見をいただく。いただいたご意見を参考に自己評価結果及び課題・改善方策について、次のポイントに留意しながら評価を行った。

- ① 自己評価結果の内容が適切か
- ② 自己評価結果を踏まえた今後の改善方策が適切か
- ③ 学校運営の改善に向けた実際の取り組みが適切か
- ④ 学校の運営に関する助言

ご意見は、本報告書として取りまとめ、今後の教育活動や学校運営の改善に活かし、教育水準の向上に努めることとし、ホームページに公表いたします。

II. 学校関係者評価委員会の報告

1. 重点目標(基準項目)について

1) 新カリキュラムの運営と評価を行う。

【取組み状況ならびに成果と課題】

令和4年の改正カリキュラムの2年目であった。1年次の科目は、前年度の評価を活かして授業に取り組み、問題なく終了した。2年次の新規の実習施設での実習については、実習目的・目標・実習内容等について実習指導者を交え事前打ち合わせを行い、終えることができた。地域・在宅看護論実習1は、新設科目の実習であったが実習目標は達成できており、地域で生活する人の健康と生活を守る観点から学びの多い実習であった。老年看護学実習2は初めて行う実習病院であったが、実習前後の指導者会議にて実習指導方法、評価まで検討した。教員と臨床指導者の情報交換や連携に課題は残ったが、次年度の実習に向け準備を行っていききたい。授業では、2年次開始の領域横断科目について、科目担当者と領域担当者と打合せを行いつつ終了した。また、全教員で今年度の評価を行い、授業内容や授業方法の検討を行った。次年度の改善に向けて取り組んでいく。

新カリキュラムでの令和6年度の3年次の実習については、実習内容や方法について打ち合わせを行い、実習受け入れ準備を進めていただいている。実習開始前には詳細の打ち合わせが必要である。また、新カリキュラムの完成年度を迎える。新カリキュラムの評価を行い、教育にいかしていきたい。

【委員の方からのご意見】

特になし。

2) 令和6年度入学生の学生募集と入学試験の実施と評価を行い、質の高い入学生を確保する。

【取組み状況ならびに成果と課題】

近年、入学試験の志願者は毎年減少していたが、令和6年度入学試験の志願者総数は前年度比119%となり、わずかに増加した。

- ・推薦型選抜の志願者は前年度と変わらなかった。
- ・一般選抜は令和6年度入試から3回実施、県外までの広い広報活動が、志願者の増加につながったと考える。

入学生の確保は依然として困難な状況であり、社会人経験者や県外からの看護を志す受験生にも広く本校を知っていただき、進学先として選択されるよう広報活動を進めていくことが課題である。

【委員の方からのご意見】

特になし。

2. 基準項目について

自己点検・自己評価における中項目評価結果は、以下のとおりとする。

S : 適切 A : やや適切 B : やや不適切 C : 不適切

基準 1 教育理念・目的・目標 (人材育成像)

学校関係者評価: 適切

➤ 総括

教育理念、教育目的、教育目標 (育成人材像) については、ホームページ、学生便覧、シラバスに明記し周知を図っている。教職員には、入職時オリエンテーションを通して、新入生及び保護者等には入学時オリエンテーション、保護者等懇談会で説明を行い、在校生には新学期のオリエンテーションにて説明を行い、周知に努めている。また、令和4年度に第5次カリキュラム改正が行われ、社会のニーズ等を踏まえ検討した教育理念、教育目的、教育目標 (育成人材像) を定めている。今後も、教育に反映するために本校教職員だけでなく、非常勤講師・実習指導者にも引き続き周知していくことが課題である。

中項目	評価項目	自己点検・評価結果
1-1	教育理念・教育目的・育成人材像が明文化され、教職員、学生、保護者等、関係業界に周知を図り、社会に公表しているか	S
1-2	社会や関連業界のニーズを踏まえた将来構想を描いているか	S

➤ 学校関係者評価委員会からのご意見

カリキュラム・ポリシーが具体的に示されていること、教育理念、教育目的、教育目標 (育成人材像) の周知が図られていることに高い評価を得た。

➤ 課題・改善策

教育理念、教育目的、教育目標 (育成人材像) については、本校教職員だけでなく、非常勤講師・実習指導者にも引き続き周知していくことが課題である。

また、社会や医療業界の変化による求められる人材像の変化、新カリキュラムの教育評価、入学生の実態の変化等をふまえ、人材育成、学校の将来構想を描いていくことが課題となる。今後、職業実践専門課程の認定に向け、教育課程編成委員会を設置する予定であり、業界のニーズ等をもとに育成人材像や特色ある教育にむけて検討を進める。また、法人の将来構想のもと、本校の将来構想、教育の方向を描いていくようにする。

基準 2 学校運営

学校関係者評価: やや適切

➤ 総括

法人としての組織運営、意思決定機関については、適切に機能している。年度開始時に教育理念に沿った組織の運営方針、事業計画を策定し、全教職員に周知している。事業計画の執行状況は、定期的に運営会議、教務会議等で確認している。

情報のシステム化については、サーバー内に必要な情報を一元化し業務の効率化を図れるようにしている。しかし、入試・学務・財務におけるデジタル化は遅れており、DX 推進に向けた研修の受講を開始した。今後、法人としてシステムの導入に向け、準備を行っていくことが必要である。

中項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-1	学校の教育理念等に沿った運営方針を定めているか	S
2-2	事業計画を作成し、執行しているか	S
2-3	運営組織や意思決定機関は効率的なものになっているか	S
2-4	人事・給与に関する制度を確立しているか	S
2-5	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	B

➤ 学校関係者評価委員会からのご意見

デジタル化による業務の効率化は必要であり、教育 DX の推進も課題である。システムの導入の検討がされているようなので今後に期待するという意見をいただいた。

教職員への運営方針の理解状況を確認することは重要であり、今後評価が上がることを期待するという意見をいただいた。

➤ 課題・改善策

年度開始時に運営方針、事業計画は全教職員に周知しているが、その進捗状況等について会議等で確認、共有し円滑に執行していくことが課題である。また、情報のデジタル化については、法人のシステム導入に関する情報収集と他校の DX 推進に関する情報収集を行い、教育 DX による学習効果や課題の検討、システムの導入・運用について検討を進める。

基準 3 教育活動

学校関係者評価:適切

➤ 総括

教育理念、教育目的、教育目標(育成人材像)に沿ったデュプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを策定し、カリキュラムを編成・実施している。カリキュラム・ポリシーはシラバスに記載し学生に説明しているが、公表に至っていない。令和4年度改正の教育課程に関しては、教育評価を行いつつ運用している。

看護師国家試験については、1年次から年間計画を立案し、指導体制を整えている。キャリア支援については、入学時から社会人基礎力を身につけられるよう指導している。職業的自立については外部講師による講義とキャリア形成に向けた個別的な指導を行っている。高校との連携によるキャリア教育については、高校からの要請に応じて可能な限り参加している。

専任教員については、令和5年度は2名の教員が専任教員の要件を満たすことができた。要件を満たしていない2名は、令和6・7年度に専任教員養成講習会受講を計画している。教員の能力開発については、研修会等に積極的に参加し、研修内容は口頭及び書面にて共有できるようにしている。

中項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-1	教育理念、教育目標(育成人材像)に沿った教育課程を編成・実施しているか	S
3-2	各学科の教育目標、育成人材像に向けて、体系的なカリキュラム作成などの取組がなされているか	A
3-3	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	S
3-4	資格・免許取得のための指導体制があるか	S
3-5	基礎的・汎用的能力(①人間関係形成・社会形成能力、②自己理解・自己管理能力、③	S

	課題対応能力、④キャリアプランニング能力)を身につけるための取組が実施されているか	
3-6	教員の能力評価・能力向上に向けた取組みを行っているか	A

➤ 学校関係者評価委員会からのご意見

教員の能力開発まで踏み込んで検討していることに高い評価を得た。

➤ 課題・改善案

改正教育課程は完成年度となり、新たな科目(臨地実習を含む)の準備、実習指導者との十分な打ち合わせと指導、教育評価が必要である。令和6年度から教育課程編成委員会を発足させ、カリキュラムの改善を図りたい。また、3年間の体系的なキャリア教育についても検討し、推進していく。

教員の能力向上については、専門分野の先端的な知識・技能等の修得に向けた研修への参加が課題である。教職員研修計画の作成を行い、教員の能力開発を行っていく。

基準 4 学修成果・教育成果

学校関係者評価:適切

➤ 総括

学生の習熟状況については、成績等をもとに学習者の状況を分析し、成績低迷者は保護者等とともに面談を行い学習支援につなげている。看護師国家試験の合格率は100%を継続しており、就職率も100%であった。そのうちの約6割は関連病院に就職している。

令和5年度は前年度の卒業生について就職先に卒業生の社会人基礎力、看護実践能力、本校への要望等の調査を行った。その結果、社会人基礎力は「考え抜く力」、「前に踏み出す力」が弱く、「チームで働く力」は一定程度身につけていること、看護実践能力では「エビデンスをもとにした判断・看護実践」については不足があることが明らかとなった。これらについては、次年度以降の課題としたい。また、前年度の卒業生に対してホームカミングデイを設け、新人看護師としての悩み等を聞く機会を設けた。

中項目	評価項目	自己点検・評価結果
4-1	教育目標、育成人材像に向けてその達成への取り組みと評価がされているか	S
4-2	就職率の向上が図られているか	S
4-3	資格・免許取得率の向上が図られているか	S
4-4	卒業生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	S

➤ 学校関係者評価委員会からのご意見

卒業生から本校を見ると、実習中に看護実践に係る多くの事項を経験していることが強みとなっているという評価を得た。

卒業生の教育評価(アンケート)結果について、病院でも1~3年目の看護師の社会人基礎力の調査を行っているが、本校のデータとほぼ同様の結果である。「考え抜く力」、「前に踏み出す力」は専門職業人として自立するために必要な力であり、自立した職業人となるためにもこれらの力を養うことが必要であるという意見をいただいた。

➤ 課題・改善策

成績の低迷している学生に主体的な学習が行えるよう支援する。入学時から社会人基礎力を含めたキャリア教育を体系化すること、そのなかで「考え抜く力」、「前に踏み出す力」について意識させていくことが必要である。また、どのように育成していくか、今後検討していくことが課題である。

看護実践能力については、令和6年度の重点目標のひとつに「臨床判断能力の育成」をあげ、講義や実習での指導を強化する。

基準 5 学生支援

学校関係者評価:適切

➤ 総括

学生の修学のための修学支援新制度対象校・専門実践教育訓練指定講座となっており、学生の経済的側面に関する支援体制は整備されている。また、健康管理体制、進路支援体制、相談体制を整え、学修に専念できる環境を整えている。クラス担任および小集団担当教員を配置し、学生の相談体制を整えている。スクールカウンセラーによるカウンセリングも利用できる体制を整えている。退学率は前年度比40%と低減している。

中項目	評価項目	自己点検・評価結果
5-1	学生に対する修学支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか	S
5-2	就職・進学指導に関する支援体制は整備され、有効に機能しているか	S
5-3	学生相談に関する体制は整備されているか	S
5-4	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。学生の健康を担う組織体制はあるか。生活環境支援体制を整備しているか	S
5-5	退学率の低減が図られているか	S
5-6	保証人との連携体制を構築しているか	S
5-7	卒業生の動向を把握しているか。社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	A

➤ 学校関係者評価委員会からのご意見

看護師については「新人看護職員研修ガイドライン」に基づき各病院で新人看護師研修が行われている。学校として卒業生に必要な支援として何があるのかは難しいところである。メンタルサポートは必要かもしれないが、権利の意識の高さが目立つようになっている。また、相談などないまま退職するケースも出てきている、との助言、情報提供をいただいた。

➤ 課題・改善策

学生の個別の支援を行い、今後も看護を志す学生の退学を防止することが課題である。障害のある学生への合理的配慮、ハラスメント防止にむけた対応を進める。また、卒業生の卒業後教育に対する取り組み、社会人の学生のニーズの把握と支援、学習環境の整備が課題である。

基準 6 教育環境

学校関係者評価:適切

➤ 総括

看護師等養成所の運営に関するガイドラインに則り設備、教材、備品、図書等を整備しており、さらに、ハイブリッドシミュレータなども整備し、より臨床の場に近い学習ができるよう環境を整備している。図書に

については、令和4年度から分類を見直し、令和5年度に新分類とし学生が活用しやすいようにした。防災に関しては、組織体制や安全管理マニュアルを整備し、災害時の対策に関する計画立案に基づき、防災訓練を年に1回実施している。

中項目	評価項目	自己点検・評価結果
6-1	施設、設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	S
6-2	校外の実習、インターンシップ、海外研修等について、十分な教育体制を整備しているか	S
6-3	防災・安全管理に関する体制を整備しているか。防災訓練等を実施しているか	S

➤ **学校関係者評価委員会からのご意見**

特になし。

➤ **課題・改善策**

災害発生時のマニュアルの整備と学生教職員への周知徹底を行うことが課題である。また、災害訓練は火災訓練のみの実施であるため、今後は地震等の災害を想定した訓練が必要である。

基準 7 学生の受入れ募集

学校関係者評価:適切

➤ **総括**

学生募集活動は、学校説明会を開催し本校の教育活動に理解を得るようにしている。高等学校や九州・山口の各地で開催される説明会への参加や高校訪問を行い、看護師の職務や本校の教育の特徴、教育内容、教育の成果を紹介している。アドミッション・ポリシー、選抜方法等は学校案内、募集要項、ホームページにて公表している。入学者選考においては公正な選考を行っている。

中項目	評価項目	自己点検・評価結果
7-1	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか	S
7-2	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	S
7-3	学納金は妥当なものとなっているか	S

➤ **学校関係者評価委員会からのご意見**

ホームページやオープンキャンパスの充実が図られているという評価を得た。

➤ **課題・改善策**

コロナ禍で縮小されていた学校見学会をオープンキャンパスに変更し、看護の理解が深まるよう情報提供を行う。また、本校の教育活動が伝わるよう学校案内をリニューアルする。

基準 8 教育の内部質保証システム

学校関係者評価:適切

➤ **総括**

保健師助産師看護師学校養成所指定規則、看護師等養成所の運営に関するガイドライン、専修学校設置基準等の法令を遵守し、学校の運営を行っている。保健師助産師看護師法施行令第14条第1項の規定による年次報告についても指摘や提言は受けていない。また、令和5年度は福岡県保健医療介護部

医療指導課による看護師等養成所に係る指導調査が実施され、改善を必要とする事項はなかった。個人情報保護規程、ハラスメント防止規定等を含む諸規程についても適切に整備されている。

自己点検・評価については、これまで自己点検・自己評価委員会にて行っていたが、令和5年度から全教職員による自己点検・評価、その結果をもとに自己点検・自己評価委員会にて協議を行い、全教職員で課題と改善計画を共有する体制に変更した。この自己点検・評価活動を通して全教職員の学校教育・学校運営の課題等の認識につながっている。

中項目	評価項目	自己点検・評価結果
8-1	法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行なっているか	S
8-2	個人情報に関する規程を整備し、個人情報に対する対応を取っているか	S
8-3	自己評価、学校関係者評価の実施体制を整備しているか	S
8-4	教育目標、育成人材像に向けて自己点検・評価活動の実施体制を確立して改革・改善のためのシステムが構築されているか	A
8-5	教育活動に関する情報公開を積極的に行っているか	S

➤ 学校関係者評価委員からのご意見

自己点検・評価が教職員に共有されていることについて高い評価を得た。

➤ 課題・改善案

自己点検・評価活動の実施体制の変更による教職員の意識の向上と改善への積極的取り組みが課題である。重点目標を明確に示し、全教職員で取り組んでいく。

基準 9 財務

学校関係者評価：適切

➤ 総括

財務諸表はホームページに公開しており、学校の財政基盤は安定している。事業年度開始にあたって教育機器・教材の購入を年間予算に計上し、計画的・優先的に購入し教育活動が遂行できるようにしている。適正に執行管理しており、会計監査が行われている。

中項目	評価項目	自己点検・評価結果
9-1	学校の中長期的な財務基盤は安定しているといえるか	S
9-2	予算及び収支計画は有効かつ妥当か。予算及び収支計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	S
9-3	財務について会計監査が適正におこなわれているか	S
9-4	私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	S

➤ 学校関係者評価委員からのご意見

適切に運用されているとの評価を得た。

➤ 課題・改善案

今後も学生の確保を図り、継続して中期的な財政基盤の安定に努めていくことが課題である。

➤ 総括

社会貢献・地域貢献活動として、高等学校等で行われる職業教育に関する講師の派遣を行っている。教育資源の活用として地域からの要請には積極的に対応したいが要請がなかった。

新型コロナウイルス感染症が感染症法上5類となり、まちづくり協議会と連携し学生のイベント等のボランティア活動を支援し、活動できた。

中項目	評価項目	自己点検・評価結果
10-1	学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか	A
10-2	学生のボランティア活動を奨励・支援しているか	S

➤ 学校関係者評価委員からのご意見

学生及び教職員のボランティア活動や地域貢献に向け、積極的な活動に期待するとの意見をいただいた。

➤ 課題・改善案

本校が社会に期待される役割、地域貢献のあり方を模索、検討する。学生のボランティア活動についても一層の支援を行っていく。